

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

令和2年1月25日現在

## 今月の重点活動

### ■スマート農業 ほ場生産管理システムでV溝直播作業を計画

瑞穂市の(農)巣南営農組合では、引き続き令和2年度も国のスマート農業実証プロジェクトにて、V溝直播栽培などによる輸出用米の超低コスト生産に取り組む予定である。

1月からは、V溝直播予定の水田でプラウ耕や鎮圧などのほ場準備が始まるが、農業普及課では営農組合に導入されたほ場生産管理システム「アグリノート」を使って、営農組合やJAぎふとともに作業計画の打ち合わせを行った。

令和2年度は、組合全体で65haものV溝直播を実施する予定であり、今からの計画的なほ場準備が重要であることから、農業普及課ではJAぎふと連携してアグリノートを利用し、農作業の進捗確認や適期は種に向けた指導を行う。



【プラウ耕を使った  
直播ほ場の準備作業】

(地域支援第三係・松本政行)

## 多様な担い手づくり

### ■担い手育成 青年農業士による出前講座の実施

1月22日、瑞穂市で柿を栽培する青年農業士の関谷秀樹氏が、岐阜農林高等学校の食品科学科2年生39名を対象に出前講座を行った。

これは、農業高校生に実際の農業経営を学んでもらおうと、地域で活躍する農業者を派遣する県事業「農業の現場を学ぶ出前講座」により実施された。

食品科学科の学生は、食品加工やサービス業への就職も多く、農業に関心を持ってもらうため、関谷氏は「農業の6次産業化について」というテーマで自身が行っている地元ケーキ屋と連携した6次産業化や柿のPRについて話をした。

農業普及課では、今後も農業高校と連携して、学生が農業への関心を高められるよう現場の生きた情報を伝えてゆく。



【楽しく講義する関谷氏】

(地域支援第一係 山田和彦)

### ■アドバイザー GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロック視察研修を開催

1月24日、GLAMAいきいきネットワーク(女性農業経営アドバイザー)岐阜ブロックが、視察研修を実施した。

農業体験をテーマに、日進市にある市民農園「郊外田園クラブ下田ビレッジ」や農家レストラン「サバーヴィアン」のほか、刈谷市の大型ハイウェイパーク直売所などを視察した。

岐阜管内も都市農業地域で同じ条件であることから、会員は自らの経営にも取り入れられないかと熱心に学習していた。

農業普及課では、今後も女性農業経営アドバイザーの経営に役立つ情報の提供や自主的な組織運営について支援を行う。

(園芸産地支援第一係・福田 富幸)



【熱心に話を聞く会員】

### ■カキ JAぎふ柿塾、第5回講義を開催

新たな柿の担い手育成を目指して取り組んでいるJAぎふ柿塾の第5回講義が、1月22日に岐阜市内ほ場にて開催された。

今回は、年間の中で最も重要な作業である整枝剪定について、現地ほ場において講義と技術実演を、農業普及課とJAぎふTAC職員が実施した。

本年度の講義は3月に第6回目を残すのみとなっているが、これか



【ほ場にて作業を学ぶ】

からも多くの方が柿の担い手となるよう、次年度も継続して開催する予定である。

(園芸産地支援第二係・鷲見彩子、小枝俊仁)

## ■ブロッコリー 園芸塾が開催される

1月16日、野菜生産者を増やそうとJAぎふと農業普及課が取り組む「園芸塾」が開催され、各務原市ほ場にてブロッコリーの収穫作業を実習体験した。

「園芸塾」では、これまで定植、追肥などの作業を行っており、今回は本年度、最後の実習体験となった。

参加者は、ほ場での収穫作業のあと、JAぎふ鵜沼支店にて箱詰め作業を学び、最後に普及指導員が講師となって、今年のブロッコリーの栽培について振り返りを行い、園芸塾を終了した。

今後は、園芸塾の受講者が新たな野菜生産に繋がるようJAと連携して支援を行う。



【箱詰めを学ぶ園芸塾生】

(地域支援第二係・水川 誠)

## 売れるブランドづくり

### ■いちご 第4回「美濃娘」栽培講習会の開催

1月21日、本巣市にて「美濃娘」新規生産者を対象とした第4回の栽培講習会が開催された。

今回は、2月以降の栽培管理をテーマに講習を行った。いちごは2月に入ると日長も長く、日射も強くなるため草勢が強くなるが、高温が続いている今年は草勢が強くなり過ぎる恐れがあり、電照時間の短縮や停止時期、温度管理に注意する様に説明した。

室内での講習後、本巣市内の2名の「美濃娘」生産者のほ場を訪問し、生育状況を見学した。視察先では、参加者から具体的な栽培管理について質問も多く、有意義な講習会となった。

(園芸産地支援第一係・菊井 裕人、園芸産地支援第二係・三和 浩一)



【現地ほ場の見学】

### ■えだまめ 栽培研修会の開催

1月14日、15日、28日に、JAぎふ島、合渡、則武支店において、JAぎふえだまめ部会員を対象に栽培研修会を開催し、生産者など約160名が参加した。

1月下旬には、ハウスえだまめの播種も始まることから、農業普及課から、令和2年産に向けた作付計画のポイントやGAPの普及推進に向け、県GAP実践者の優良事例の紹介を行った。

JAからは、部会管理規則等の変更点や記録様式の記載方法の説明が行われ、参加者それぞれで自己点検を実施した。

農業普及課では、JAと連携して高品質安定生産に向けた栽培支援を行っていく予定である。

(園芸産地支援第一係・高井 啓)



【栽培研修会の様子】

### ■加工ホウレンソウ 加工ホウレンソウの収穫終了

各務原市では、今年から3戸の農家が新たに加工ホウレンソウの栽培に取り組んでいる。

加工ホウレンソウは、単価を事前に決めた契約栽培で、9月に播種、12月中旬～1月下旬に収穫、JAを経由して加工業者へ出荷される。

今作は暖冬で、害虫被害が発生したが、選別を丁寧に行ったことで業者からのクレームも無く、出荷することができた。

農業普及課では、講習会や巡回指導を重ね、栽培管理や病虫害防除について指導を行ってきたが、今年の反省点を踏まえ、新たな品目として、次年度も支援を継続してゆく。



【加工ホウレンソウ収穫】

(地域支援第二係・水川 誠)